

平成21年度事業報告

I. 総括

II. 愛鳥思想の普及啓発に関する事業

1. 第63回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」
2. 第44回全国野生生物保護実績発表大会
3. 平成22年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール等
4. 野鳥保護に関するキャンペーン等
5. 中国トキ保護・増殖支援活動
6. 探鳥会・自然観察会等
7. 愛鳥懇話会
8. 図書・愛鳥教育教材等
9. 広報活動
10. バードピア計画

III. 鳥類保護の調査研究等に関する事業

1. 受託事業
2. 請負事業
3. 自主調査・研究等活動
4. 鳥類保護・共生推進活動

IV. 組織活動に関する事業

1. 入会促進等
2. 支部との連携強化
3. 専門委員活動の拡充
4. 表彰制度の拡充
5. 関係団体との連携・協力
6. 本部活動

I. 総括

平成21年度の事業については、基本的に前年度実施事業を継続し、これらの事業の拡充に努めた。連盟事業の柱である三つの分野の事業を総括すると、次のとおりである。

- ① 愛鳥思想の普及啓発事業については、探鳥会・観察会に関して、新規プログラムを追加したほか、中高年層、親子を対象とする企画を拡充した。
また、愛鳥教育教材に関して、新規に野鳥シートの音声仕様の開発を行ったほか、機関誌の誌面のリニューアルを行った。
- ② 鳥類保護の調査研究等の事業については、受託・請負事業に関して、実施件数は前年実績を上回る結果となったが、受注額は前年実績を下回る結果となった。なお、鳥類保護・共生推進活動に関しては、鳥類保護・共生推進基金を創設するとともに、基金設置運営要領を策定した。
- ③ 組織活動の事業については、新法人への移行に必要な主要事項の検討並びに手続きを進めた。

II. 愛鳥思想の普及啓発に関する事業

1. 第63回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」

日 時：5月10日（日）

場 所：釧路市観光国際交流センター

主 催：財団法人日本鳥類保護連盟・環境省・北海道・釧路市

後 援：文部科学省・林野庁

概 要： 常陸宮・同妃両殿下のご臨席のもとに、吉野正芳環境副大臣はじめ、高橋はるみ北海道知事、河野洋平愛鳥百人委員会会長等約300名の参加を得て開催された。式典では、連盟総裁賞を始め野生生物保護功労者表彰が行われた。

また、式典終了後、釧路全日空ホテルにおいて、常陸宮同妃両殿下ご臨席を賜り、下記により愛鳥パーティを開催した。

主 催：財団法人日本鳥類保護連盟・北海道

参加者： 第63回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」式典に参加した全国からの愛鳥家、鳥類保護関係者および野生生物保護功労者表彰受賞者等約100名。

2. 第44回全国野生生物保護実績発表大会

日 時：11月30日（月）
場 所：中央合同庁舎5号館2階講堂（東京都千代田区霞ヶ関）
主 催：財団法人日本鳥類保護連盟・環境省
後 援：文部科学省・林野庁
対 象：児童・生徒が野生生物保護活動を実践している学校・団体
審査対象：都道府県知事から推薦された21件のうち、10月22日（木）の
一次審査会で選ばれた小学校5校、中学校2校、高等学校3校の計
10校
審 査 員：環境省、文部科学省、林野庁の各担当官、鳥類の専門家など
結 果：各学校発表の発表後、審査会を開催し各賞を決定した。

なお、上記の受賞校の活動実績を大会記録としてとりまとめ、都道府県および
全国愛鳥教育研究会等関係方面に配布するとともに、機関誌「私たちの自然」お
よび連盟のホームページに掲載して情報提供に努めた。

3. 平成22年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール等

主 催：財団法人日本鳥類保護連盟
後 援：環境省、文部科学省、林野庁
募集期間：平成21年4月1日（水）～10月1日（木）
対 象：小学校・中学校・高等学校等の児童・生徒
応募総数：78,515点／5,094校
審査対象：全応募作品のうち、都道府県の審査を経て推薦された385点
審 査：10月22日（木）中央合同庁舎5号館共用第6会議室
審 査 員：後援省庁の担当官、画家、全国愛鳥教育研究会、連盟関係者
結 果： 総裁賞／知念英悟 沖縄県那覇市立真地小学校5年
環境大臣賞3点、文部大臣賞3点、林野庁長官賞3点、日本鳥類保
護連盟会長賞9点、入選57点

なお、上記の入賞作品について、次のとおり愛鳥週間用ポスター原画コンク
ール入賞作品展2010を開催した。

期 間：平成22年5月7日（金）～5月16日（日）
場 所：新宿御苑インフォメーションセンター アートギャラリー
内 容： 総裁賞をはじめとする入賞作品ならびに過年度のポスターを展示。
期間中約1,800人の来場者があった。

4. 野鳥保護に関するキャンペーン等

(1) 「全国一斉テグス拾い」キャンペーン

- 期 間：春および秋
 (春) 5月10日(日)～6月30日(火)
 (秋) 10月1日(木)～31日(土)(平成21年度から追加)
- 場 所：全国の釣りの行われている水辺
- 結 果：・参加者：延べ619名(会員・専門委員・支部・一般・釣り人)
 ・実施地点：23都道府県56地点
 ・回収したテグス：約123,041m(重量換算：1g=13m)
 ・被害鳥：3種6羽

(2) 「ヒナを拾わないで!!」キャンペーン

- 期 間：4月1日(日)～7月1日(日)
- 共 催：財団法人日本鳥類保護連盟、財団法人日本野鳥の会、NPO法人
 野生動物救護獣医師協会
- 後 援：環境省
- 内 容：野鳥のヒナを安易に拾わないことを広く周知させるため、全国の
 都道府県と企業の協賛、協力を得て、普及啓発ポスター105,200
 枚(連盟30,200枚)を作成して、都道府県、教育機関を中心に配布
 し、巣立ちヒナへの適切な対処方法について広く普及を図った。

(3) 憲政記念館北庭園における巣箱架設行事

- 日 時：3月17日(水)
- 場 所：憲政記念館 北庭園
- 主 催：鳥類保護議員懇話会・財団法人日本鳥類保護連盟
- 参 加 者：国会議員20名、千代田区立麴町小学校ワークわくクラブおよびお
 茶の水小学校の児童37名、我孫子市心身障害者福祉作業所みずき
 22名(巣箱キット作成)の他、環境省などの関係者を含め約100
 名が参加した。

また、前年に架設した巣箱については、平成21年10月に千代田区立麴町小学校ワークわくクラブの児童とともに巣箱調査を行った。

5. 中国トキ保護・増殖支援活動

(1) 中国トキ保護観察団

日 時：10月9日（金）～14日（水）
場 所：中国 陝西省 洋県
主 催：財団法人日本鳥類保護連盟
内 容：野生と人工飼育を合わせて、平成21年末で約1、300羽まで増加したとされる中国におけるトキの保護・増殖を支援するため、観察団（8名）を派遣した。

(2) 中国トキ保護支援基金

本年度は、中国側の要請に基づき、陝西省周至県の陝西省珍稀野生動物救護飼養研究センターに対して、トキ用カラーリング（300個）を寄贈した。

6. 探鳥会・自然観察会等

(1) 初心者のための「てほどき野鳥ウォッチング」（連続3回）

一回目：12月18日（金） 新宿御苑（新宿区内藤）
二回目：1月15日（金） 多摩川（日野市百草～多摩市関戸）
三回目：2月5日（金） 多摩森林科学園（八王子市高尾）

対 象：初心者で18歳以上、原則として3回全てに参加
内 容：双眼鏡の使い方、野鳥の探しなど、野鳥観察の楽しみ方
募集人数：20名
参 加 者：24名

(2) 定例観察会

東京都を中心に近郊県の公園、緑地等において、野鳥の専門家等の協力を得て10回開催した。参加総人数は95人。

(3) 子ども愛鳥スクール

夏休み親子遠足「自然を楽しむ富士山ハイキング」

日 時：8月8日（土）10：00～15：30
場 所：富士山（五合目から奥庭）
内 容：野鳥などのいきもの探しや高山植物の観察
対 象：小学生とその家族
参加人数：22名（8家族）

（4）親子野鳥観察プログラム

新宿御苑において、主に小学校の子どもと両親、祖父母を対象に、巣箱を主軸とした野鳥観察プログラムを平成21年度から開始した。

① 第1回野鳥観察「巣箱を作って森に架けよう!」

日 時：11月14日（土）
場 所：新宿御苑 母と子の森
参加者：親子12組（30名）

② 第2回野鳥観察「バードウォッチングへ行こう!」

日 時：2月28日（日）
場 所：新宿御苑（雨天のため室内レクチャー）
参加者：親子15組（45名）
講 師：♪鳥くん（鳥のインタープリター）

（5）愛鳥エコ・ツアー

日 時：9月15日～16日
場 所：富山県（立山博物館・正源寺・立山自然保護センターなど）
主 催：財団法人日本鳥類保護連盟本部・富山県支部、（株）ワイバード
内 容：22名が参加し、立山地域の自然・文化にふれあうとともに、室堂平でのライチョウ観察および外来植物の除去を行った。

7. 愛鳥懇話会

日 時：12月16日（水）
場 所：日比谷松本楼
主 催：財団法人日本鳥類保護連盟
内 容：連盟総裁常陸宮殿下のご臨席のもと、河野洋平衆議院議長、江田五月参議院議長、田島一成環境副大臣をはじめ愛鳥百人委員会のメンバ

一、鳥類保護関係者など、全国から愛鳥家、鳥類保護関係者約120人が参加した。

なお、開会に先立って平成22年度愛鳥週間用ポスター原画コンクールの総裁賞の授与式が行われ、常陸宮殿下から受賞者の沖縄県那覇市立真地小学校5年生の知念英悟君に賞状及び記念品が授与された。

また、連盟の活動支援のためにご寄附をいただいた日本ゲームカード株式会社、野澤由積取締役副社長に連盟総裁常陸宮殿下から感謝状が授与された。

8. 図書・愛鳥教育教材

(1) 図書

「鳥630図鑑」（昭和60年発行、平成14年に改訂、増補）の改訂および「まもろう鳥みどり自然」（平成9年発行、平成12年増刷）に替わる普及啓発図書作成のための作業を進めた。

(2) 愛鳥教育教材の製作、普及

①野鳥シートの音声版の作成等

「身近に鳴く虫・カエル」を新たに作成するとともに、既存野鳥シート（「身近な野鳥」「水辺の野鳥」）の音声版を製作し、音声再生ペン（ユーディ・クリエイト（株）「UD-PEN」）とのセット販売を行った。

②バード・ピンズの追加

「オオワシ」を野付半島ネイチャーセンターと連携して新規製作した。

③愛鳥教育教材等の普及

自然環境保全関係イベントへの積極的参加による商品紹介および販売並びに自然公園ビジターセンター等の拠点および通信販売を通じた商品PRと普及促進を行った。

また、「日本の野鳥カレンダー」については、首都圏の大手書店との委託販売の強化およびビジターセンター、自然関係グッズ販売店等の拠点増加に努めるとともに、法人会員等の企業・団体および個人への普及促進を行った。

9. 広報活動

(1) 機関誌「私たちの自然」

発行回数：機関誌【私たちの自然】を10回発行した。(平成21年4月号 No. 545～平成22年3月号 No. 554)

- ・発行部数：4,600部(平成22年1・2月合併号 No. 553より、経費と森林資源節約のため、4,200部に縮小)
- ・配布先：会員、愛鳥モデル校、自然保護団体、都道府県自然環境担当部局および教育委員会。また、広報活動の一環として各種行事において無料配布。

平成19年8・9月合併号において実施した読者アンケートの結果と平成20年8月に設置した編集委員会(平成21年度は、計3回の編集委員会を開催)での検討結果を踏まえ、平成21年4月号から、誌面のリニューアルを行った。

- ・表紙デザインの一変(表紙に絵画を採用)。
- ・表3(裏表紙の前頁)で「里山の自然」をテーマとする絵画による生き物紹介。
- ・子どもへの自然保護思想の普及のため、「野鳥と仲良く」と「生き物の世界を覗こう」の2本の新連載開始。

(2) ホームページ

「全国野鳥保護のつどい」を始め、連盟の行事・イベント、自然観察会、会員募集及び図書・商品案内などの案内情報の発信、活動広報の拡充を図り、愛鳥思想、自然保護思想の普及啓発に努めた。

10. バードピア計画

人と野鳥などの身近な生き物との共生を進める野鳥たちの楽園(バードピア)づくりに関するパンフレットなど、PRに必要な基本的な考え方(「バードピア計画」)を作成した。

Ⅲ. 鳥類保護の調査研究等に関する事業

1. 受託事業

受託事業については、別表のとおり愛鳥思想の普及啓発に関する事業、トキの保護増殖に関する国際協力事業、猛禽類の保護対策に関する事業、および渡り鳥、水鳥等の保護に関する事業等を支部とも連携して実施した。

2. 請負事業

請負事業については、別表のとおり国土交通省および林野庁等の国の機関等からの絶滅の恐れのある鳥類の保護に関連する事業のほか、野生鳥類の保護に関する調査などを実施した。

3. 自主調査・研究活動等

平成20年度に引き続いて、ワカケホンセイインコの在来生物への影響を把握するための生息状況、生態等に関する調査・研究を実施した。

また、ワカケホンセイインコ等移入鳥に関する情報収集に努めた。

4. 鳥類保護・共生推進活動

絶滅の恐れのある鳥類など希少な鳥類の保護或いは人と鳥類との共生を推進するために、下記の調査研究、実践活動および普及啓発事業について、連盟が自ら或いは共同して実施することができるよう、新たに基金を創設するとともに、基金設置運営要領を作成した。

- ① 絶滅の恐れのある鳥類など希少な鳥類の保護に関する調査研究、普及啓発および実践活動で、その効果が大きいと認められる事業。
- ② 人と鳥類との共生及びふれあいの推進に関する活動で、その効果が大きいと認められる事業。

Ⅳ. 組織活動に関する事業

1. 入会促進等

「全国野鳥保護のつどい」、「新宿御苑みどりの月間の集い」、「ジャパンバードフェスティバル 2009」等をはじめ、各種参加行事の機会を利用して、入会の呼びかけを行なった。

また、中高年層の入会促進をねらいとして、平成19年度から開始した「てほどきバードウォッチング」、東京近郊における自然観察会などを実施して参加者に対する入会促進等に努めたが、平成21年度末における会員数総数は、対前年度195会員減となった。

2. 支部との連携強化

北陸三県支部ブロック（石川県、福井県、富山県）会議（平成21年10月）に出席し本部、支部間の意見交換および交流を進めたほか、富山県支部との共催による愛鳥エコツアー（平成21年9月）を実施し、連携強化に努めた。

また、新公益法人移行への対応に関して、岡山県支部、千葉県支部、宮崎県支部、山口県との意見交換を行った。

3. 専門委員活動の拡充

専門委員活動の活性化を図るとともに、全国的な野鳥の生息状況を長期的に見ていくため、平成20年度に引き続き、95名の専門委員の参加を得て、全国的な野鳥のモニタリングを実施した。

また、支部と専門委員との連携を進めるとともに、専門委員活動の充実に資するため、メールその他による情報・意見の交換を積極的に行った。

4. 表彰制度の拡充

寄附行為に掲げる各種事業活動および運営に関する個人、法人或いは団体の顕著な貢献を顕彰する表彰制度を拡充するため、関係団体の類似制度の資料を収集し、検討を行った。

5. 関係団体との連携・協力

（1）各種行事への参加等

① 2009 新宿御苑「みどりフェスタ&国立公園フェア」

日 時：4月29日（水）

場 所：新宿御苑

主 催：2009 新宿御苑みどりフェスタ実行委員会

主 唱：環境省

活動内容：連盟活動紹介・愛鳥教育教材等の販売・バイオマスプラスチックで作成した「エコ・デコイ」の色塗り教室を行い、愛鳥思想普及並びに連盟活動と入会促進のPRを行った。（入場者数 15,000 人）

② 第6回バードハウス展

日 時：10月4日（日）

場 所：都立神代植物公園

主 催：東京都環境局、東京コカ・コーラボトリング(株)、興和(株)、(株)文一総合出版、NPO 法人環境学習研究会

活動内容：愛鳥教育教材等の販売およびパネル展示を通して活動紹介を行ない、野鳥への興味増進と入会の機会の提供に努めた。（入場者数 3,100 人）

③ ジャパンバードフェスティバル 2009

日 時：11月7日（土）～8日（日）

場 所：千葉県 我孫子市

主 催：ジャパンバードフェスティバル実行委員会

活動内容： 「人と鳥の共存をめざして」を目的としたジャパンバードフェスティバルの実行委員会に参画した。

愛鳥教育教材等の販売および連盟活動紹介のパネル展示などを行ない、愛鳥思想普及啓発、会員募集活動を行った。

なお、日本バードカービング協会主催のコンテストに協力し、連盟会長賞を贈った。（来場者数 38,000 人）

④ 野鳥を知るバードカービング展 ～北海道の自然～

日 時：6月2日（火）～6月7日（日）

場 所：新宿御苑インフォメーションセンターアートギャラリー

主 催：財団法人日本鳥類保護連盟、鳥工房「つばさ」

活動内容：野鳥保護に関する普及啓発を行うため、バードカービング展示を実施した。（入場者3,300人）

⑤所沢航空記念公園自然観察会

日 時：11月22日（日）

場 所：所沢航空発祥記念館・所沢航空記念公園（主催）の秋の自然観察会において巣箱プログラムを実施した。

参加者：児童・親子35名

⑥その他

東松山市で開催した第32回日本スリーデーマーチ及び葛西臨海公園鳥類園における冬、春、秋の野鳥とのふれあい関連行事に参画し、連盟ブースを拠点として、連盟活動紹介、愛鳥思想普及啓発活動を行った。

（2）関係団体等との連携・協力

全国愛鳥教育研究会との連携を図り、愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」における野生生物保護功労者表彰、全国野生生物保護実績発表大会の審査および愛鳥教育教材制作など、愛鳥思想普及啓発に関する事業の適切な運営に努めた。

また、鳥類保護議員懇話会と連携し、憲政記念館北庭園における巣箱架設行事を実施したほか、愛鳥百人委員会と連携して「全国野鳥保護のつどい」および「愛鳥懇話会」の適切な実施に努めた。

6. 本部活動の推進

新しい公益法人への適切な移行及び連盟運営に関する重要事項を検討するため、平成20年度に設置した会議を継続して運営した。

また、公益財団法人への移行認定を想定して、条件整備作業を進め、所管官庁の認可が必要な最初の評議員の選考方法について、認可申請案を作成した。